

平成 25 年度予算総括質疑の概要

平成 25 年第 1 回二宮町議会定例会

日 時 : 平成 25 年 3 月 6 日 (水) 午前 9 時 30 分より

No.	質 問 議 員	質 問 の 概 要
1	近藤 行宏 議員	1. 予算構造について 国の経済対策で、今回限りの特別の措置として、24 年度補正予算において地域の元気臨時交付金(地域経済活性化・雇用創出臨時交付金)が創設され、大型事業を予算化しているが、当町では、これにより当初予算編成方針に変更が生じたと思うが。 更に、地方交付税と異なり、地方公共団体が単独で、実施する公共事業に充てる財源とするなど、使途を限定し、負担額の 8 割程度が交付限度額として設定されている。 これらのことを踏まえて、今回の予算編成の考え方と財政面での効果・影響について、説明を求めたい。 町債について、減債基金を廃止することとしている中で、償還額よりも借入金が上回る構造となっているが、将来負担を考えた時これは適正なのか。財政の運営方針を示されたい。 2. 子育て元年の取組みについて 定住促進事業を推進する上で、高らかに「子育て元年」を謳われているが、子育て世代を対象とした施策の展開について、基本的な考え方、姿勢を示されたい。 9 月の総括質疑でも触れた、旧国立小児病院跡地の施設整備について、検討が進められるようであるが、全体の構想、スケジュールをどのように考えているのか。 9 月答弁で、子育て支援施策の一環として小児病院跡地が山西地区の拠点となるよう取組むとあり、もう明確に示される時期と思うが、如何か。 一方で、敬老会開催を取りやめた。長寿の里の二宮町民には高齢者施策の切り捨てと映り、これだけを捉えて、単に高齢者施策の切り捨てとは、言い切れぬ部分もあると思うので、唐突にも感ずる敬老会開催取りやめについて、町長の真意を明らかにされたい。 3. 二宮漁港の在り方について 70m に縮小された、潜堤設置後のモニタリング調査が予算化されている。当然のこととして予定された消波機能は担保されず、梅沢川付近の堤防等の防護措置を講じる必要が出てくる。 そこで、堤防施設の設置と、背後地整備の相関関係について、スケジュールを含めて示されたい。 また、潜堤には船舶が係留できないこととなるが、漁港整備事業はこれ以上の進捗は考えられないということになるのか。見解を問う。 4. 駅北口整備の方向性について 暫定整備が完了する中、検証業務が予算化された。26 年度には基本計画が策定されるようだが、本格整備に向けての構想はどのようなものなのか。 また、その構想を実現していくにあたって、ようやく取得した東京大学果樹園跡地利用が絡んでいく可能性があるのか、否か。

2	根岸ゆき子 議員	財政見通しと公共施設白書の生かし方について 公共施設白書の生かし方によっては公共施設整備基金の積立増額などが必要となってくると思うが、都市計画マスタープランの2か年かけて作成されることに伴い、25年度には土地利用と施設利用に対する将来見通しの骨組みを決定させるべきと考える。 また東大跡地活用の検討も引き続き行われるが、町からは購入を決める経緯で公共施設配置のあり方とつながる考え方も示された。平成28年度から開始予定の公共施設改修整備事業にはどの範疇までを検討の土台にのせるのか、利用構想についての考えを伺いたい。 子育て支援について 25年度は子育て元年とうたっており新たに担当部局をつくることになっているが、確実に少子高齢化が進む中で飛躍的人口増を望むには難しい状況だと思う。今のニーズは働きながら子育てできる環境が求められている。また、子育ての負担を少なくすることも切実な問題であり、今後の取り組みの方向性を問う。 また小児病院跡地に子育て施設をとの検討がスタートする予定だ。方向性を打ち出すに至った経緯について伺う。 商店街活性化について この間商店街の活性化のためいくつかの事業に力を注いできたが、残念ながら目立った成果が見えない。そのような中で北口通りを花でいっぱいにするのことで新たな予算が組まれているが、商店街活性化の取り組みの町長としての成果と課題を明らかにしていただくとともに、具体的成果をだすための考え方を伺いたい。 ふたみ記念館について スタート当初から「赤字にしない」と明言してきた町長のスタンスは今後多くの入場者を得て収支のバランスをとることが町民に対する責任ある立場と考える。財政が厳しいとのことから町民が一番利用している図書費をこの間毎年減額したり、25年度はお年寄りが楽しみにしている敬老の集いまで中止する中、ふたみ記念館で赤字を計上することには異を唱える町民は少なくない。今年度はさらに来場者をふやすとの方針だが、そのためにはより具体的な計画が必要だと考えるが何年ぐらいで収支ゼロになると考えるのか、今後の展望についても伺いたい。
3	脇 正文 議員	平成25年度町長施政方針及び予算案について問う 坂本町政が新総合計画に基づき進めていくまちづくりについて、施政方針及び予算案に対し、新総合計画に示すまちづくりの方向性に基づき積極的に推進するとしている重点施策（事業）から町長の見解や説明を求める。 I. 生活の質の向上と定住人口の確保について 二宮町の人々の「生活の質」は高いと聞いたことがある。しかし、人口は様々な要因により、年々減少の一途を辿っている。それ故にこの施策は是非とも良い結果を生んで欲しいと思う。町長は、町民の「生活の質」を向上させるとともに、「住んでみたい町」となるよう定住促進に力を入れるとし、定住人口確保に繋げていくために平成25年度を「子育て元年」と宣言し、「子育て施策」を一層充実させ、「子ども・子育て支援事業計画」の策定に着手し、子育て部門の体制強化を図るため健康福祉部に子育て担当部長を配置し「子ども育成課」を新設するとし、また、児童相談体制の充実を図り、子育て練習講座を引き続き開催するとしている。従来より町は子どもの育成・成長に対し、多方面にわたり様々な政策を提案し、沢山の予算をつぎ込んできている。他市町村から見てもこれは素晴らしいことと言える。 本来子育ては難しいことだが、現在の家庭では、核家族化はもとより夫婦共働きにより子供を産み育てる時間的・精神的・経済的なゆとりがない、子育ての仕方が分からない等の問題を一人または夫婦で抱え悩む子育て世代

が増えてきている。その結果、少子化は当然のこと、児童虐待や様々な問題を抱えた子どもが増えてきている。

そこで、現在子育てに関し起きている様々な問題に対応し、少しでもこれを解消できるように対処し、結果として子育て世代の若者が住んでみたい安心して子育てができる町と二宮がアピールするために、これら施策が例えば小学校卒業時までの子どもや保護者に子育て施策として一本の線として繋がって施されるように、また、子育て担当部長の下、教育委員会なども加わって子育てに対応していくような施策が行われればこの施策は更に功を奏するのではないかと考えるが、町長の見解を求める。

・長寿の里と謳い続けている町なのに、敬老のつどい開催を打ち切るようであるが、敬老のつどいに参加する二宮生まれ二宮育ちのお年寄り、二宮が未だ小さな町で小中学校も一つずつしかなく、町全体が交流の場であった時期に子ども時代から青年時代、仲間が多く失われた戦争の時代、また社会人の時代を経て、町内で沢山の人々との絆を作ってこられた方々である。しかし残念ながら年々その仲間は減りつつあるのが現状である。よって地域の楽しみも必要だが、一年に一度の町内の集まりも必要ではないか。現在の社会、今の二宮を創りあげてきたお年寄りにはこの集まりはお金には代えられないものであると思う。また、二宮に移り住んでこられて我が町を故郷として生活されているお年寄りには、多くの方々と会うことのできる最高の場ではなかろうか。しかし、地域での楽しみ方も増大していると、打ち切っても敬老の精神を失うことなく高齢者施策を展開していくとしている。

そこで、施策のどこにこれが生かされていくのか、そもそも打ち切る理由は何か、増大する地域での楽しみとはどんなものなのか、他の方法はないのだろうか、長引く不況で財政的にも厳しいことは分かるが、こじんまりした小さな二宮だから敬老のつどいの意義は大いにあると思うのだが、町長の見解を求める。

Ⅱ．環境と風景が息づくまちづくり

・吾妻山公園再整備の最終年度として、新年度は、中里地域側の小動物園付近の整備、アスレチック遊具の更新を実施し、来園者の利便性向上を図るとともに、自然環境資源の更なる活用やまちの活性化に繋がる魅力ある公園としてリニューアルするとしているが、アスレチックのあった場所には殆ど遊具の再設置は出来ないし、自然環境資源はどのようなものを指すのか分からない。リニューアルとなった吾妻山公園への来園者がどのような恩恵を受けられるのか説明が必要である。

町長の描くリニューアル後の吾妻山公園の来園者の動き、リニューアル前や現在と比べての違い、吾妻山公園は平成20年の城所議員の質問にも答えられていたように里山としての価値を継続していくのか、坂本町長になってから、公園は管理方法が変わり、リニューアルを完了するということで、町長の構想による公園がスタートすることになる。以前私の質問に対し町長は「花による公園は終わる」と言われた。しかし菜の花は場整備工事として130万円を予算計上している。そこで、町長の描く公園構想、吾妻山公園について説明を求める。

・次に、商店街活性化についてですが、新年度は、対象が栄通りから北口通りに変わりました。栄通り商店街の活性化支援は何を判断の基準として終了し、北口商店街の活性化に向けた支援に変わっていったのでしょうか。北口商店街の活性化では、ハンギングバスケットの設置を行い、花と緑の演出により商店街の価値を高め、賑わいと消費機会の拡大を図るとしている。

そこで、町長の描くこの活性化で商店街がどのようなになっているのかその構想の説明を求める。

		・三つ目として二宮ブランドについて伺う。オリーブをはじめ、湘南ゴールド、落花生などの更なる普及奨励を進め、販路の開拓についても研究・検討を開始し、活性化を図るとしてありますが、これらを二宮ブランドとして位置づけ価値を高めていくためにどのような構想を描かれているか説明を求めます。 Ⅲ．戦略的行政運営 公有財産の再編 ・未利用公共用地の処分等を含む土地利用の方向性や公有財産の再編検討について 処分をすればお金が入りその分歳入が増えるが、その時の価値しか生まれてこない可能性がある。それよりも所有しての有効利用を考える方がよいと思うのだが、公有財産の再編成についてどのように考えているのか、町長の見解を求める。 ・二宮PR大作戦の展開で、各種重点施策を柱に、二宮町の取り組みを町内外へ戦略的にPRすることにより、観光客を集めるとともに定住人口の増加に努めるとしているが、駅南口の楠木の伐倒及び除根事業を行うが、駅前に樹齢100年を超す意味ある楠木が立っているのは東海道線沿線では二宮だけでないでしょうか。これもPRの大きな材料となると思うが、切らざるを得ない理由を説明願いたい。
--	--	--

備考：2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
 本人の通告書を記載したものです。